

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校 社会医学技術学院
設置者名	学校法人 日本リハビリテーション学舎

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
	理学療法学科(夜間部)	夜・通信	83 単位	7 単位	
	作業療法学科	夜・通信	109 単位	7 単位	
	理学療法学科(昼間部)	夜・通信	83 単位	9 単位	
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて公開。 (掲載： https://www.sigg.ac.jp/course/ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表 PDF ファイル)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校 社会医学技術学院
設置者名	学校法人 日本リハビリテーション学舎

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学院 HP で公開している <https://www.sigg.ac.jp/corporate/about/school/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	現医療法人理事長	2019. 4. 1～ 2023. 3. 31 (4年)	関連団体の長として 本法人の業務を 指導・監督する
非常勤	元業界団体会長	2019. 4. 1～ 2013. 3. 31 (4年)	元業界団体の長と して本法人の業務 を指導・監督する
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校 社会医学技術学院
設置者名	学校法人 日本リハビリテーション学舎

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 夜間部理学療法学科(4年制)、作業療法学科(4年制)、昼間部理学療法学科(3年制) 【作成について】 各授業科目については、毎年度、医療専門課程の学内会議(学科会議、教育会議、教務委員会)により、授業科目の担当教員・講義内容についての検討・検証に基づき、各授業を担当する教員により、作成を行っている。 学内教務委員会による教員用内規(シラバス作成方法と手引き)の中で、授業科目名、必要単位・時間数、担当教員名、授業の一般教育目標及び下位教育目標、授業計画または学習の主題(各回の授業テーマ)、授業の形式、教科書及び参考書に関する事項、学生の学習上の留意点、成績評価の方法は、全科目共通で記載することが必須となっており、学内統一様式でシラバス作成を行っている。 【時期について】 翌年度の講義予定(授業計画)は1月～2月に担当教員が作成し、教務委員会を経て3月の教育会議時の議案で翌年度の事業計画が承認されることで正式決定する。3月末に、翌年度分のシラバスをHP上に公開する。	
授業計画書の公表方法	https://www.sigg.ac.jp/course/ シラバス PDF ファイル
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則の細目において、学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。 各担当教員が定め学科が承認した授業科目の試験(筆記、実技、レポート含む)により成績評価を行っている。 (参考) 細目第27条〔進級・卒業・称号の授与〕 1 進級及び卒業は教育会議の議を経て学院長が認めるものとする。 2 第11条に基づいて認定された科目を除いた各学年所定の授業科目の全てに合格した者は、進級又は卒業を認める。 3 当該学年の全科目のうち、不合格科目が1科目の場合は、進級を認めることがある。その場合は原則として1年以内にその科目が合格とならなければ、次の学年への進級又は卒業は認めない。 成績評価に関する規程第4条〔成績評価〕 2 成績評価は、第1条に定める学科試験により授業目標の達成度を評価し、学習態度及び出席状況等を総合して行うものとする。 8 各科目の授業回数のうち欠席回数が3分の1を超えた者は、当該科目の評価を受けることができない。	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学則の成績評価に関する規程において、成績評価は授業科目ごとに行う学科試験(期末試験、実技試験、その他の試験やレポート課題等)によって評価される。</p> <p>成績評価の評定は、優(100点満点を基準として85点以上)、良(84~70点)、可(69~60点)、不可(60点未満)の4段階で行い、可以上を合格としている。</p> <p>学科における学年総合評価指標には、成績評価を基にしたGPA方式を規定している。</p> <p>成績評価の方法については、学則細目をHPで公開するほか、入学時オリエンテーションや、新年度に当たっての在校生ガイダンスを通じ、新入学生・在学生等に通知している。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>掲載：https://www.sigg.ac.jp/corporate/info/grade_eval/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>社会医学技術学院は、医療国家資格である理学療法士・作業療法士の養成を担う専門学校として、良質な医療専門職を育成することを目指し、その意義をもって保健・医療・福祉の分野に貢献することを目的としている。</p> <p>理学療法士・作業療法士国家試験の受験要件となる卒業要件は、各学科が定める所定の全科目を所定の年次に全て合格することを定めている。学則細目、学生便覧に記載している。同時にHPに公表している。</p> <p>当校ではディプロマ・ポリシー等も策定し、HPに公表している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>掲載： https://www.sigg.ac.jp/corporate/info/regulation/ https://www.sigg.ac.jp/corporate/about/philosophy/</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校 社会医学技術学院
設置者名	学校法人 日本リハビリテーション学舎

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	HP https://www.sigg.ac.jp/corporate/info/finance/https://www.sigg.ac.jp/corporate/pdf/y2020-2/bs2020.pdf
収支計算書又は損益計算書	HP https://www.sigg.ac.jp/corporate/info/finance/https://www.sigg.ac.jp/corporate/pdf/y2020-2/business-activity-balance-statement_2020.pdf
財産目録	HP https://www.sigg.ac.jp/corporate/info/finance/https://www.sigg.ac.jp/corporate/pdf/y2020-2/property-inventory_2020.pdf
事業報告書	HP https://www.sigg.ac.jp/corporate/about/school/https://www.sigg.ac.jp/corporate/pdf/y2020-2/businessreport_2020-2.pdf
監事による監査報告（書）	HP https://www.sigg.ac.jp/corporate/info/finance/https://www.sigg.ac.jp/corporate/pdf/y2020-2/auditreport2021.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科（夜間部）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	夜	3,120 単位時間/単位	900 単位時間 /単位	960 単位時間 /単位	900 単位時間 /単位	単位時間 /単位	360 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140人		139人	0人	6人	26人	32人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 全授業15回の中で、ワークシートやミニツッペーパーの設定や、講義内容の学修状況を把握するための中間試験・小テスト等を授業によって行っている。また、定期的または随時に、担任教員により学修や進路・生活面の面談を実施している。特に夜間部の学生に対しては、昼間就業先の情報提供や就業内容等の相談にも応じている。 意欲・意思のある学生に対しては、課外・学外を通じての教育活動として勉強会の開催やプログラムの紹介等を行い積極的な学修を支援している。 その他、臨床心理士による学生相談室を開設し、希望者には学修や精神心理面のケア等の機会も設けている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26人 (100%)	1人 (3.8%)	21人 (80.8%)	4人 (15.4%)
（主な就職、業界等） 病院、診療所、介護老人保健施設等			

(就職指導内容) 就職説明会、就職セミナー、個人面談、履歴書添削
(主な学修成果(資格・検定等)) 理学療法士
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
139人	4人	2.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による半期に一度の定期面談と、その他学修状況の変調や、学生からの希望があった際、随時面談を実施。面談内容は、学修不安、経済的・家族の状況、就業を含めた生活状況など多岐にわたる。進路に悩む場合には、学業、経済面、その他において支援しうる手立てを可能な限りアドバイスするようにしている。 最終的に進路変更希望者には、本人の希望・適性について在学中に得られた情報をフィードバックし、職業選択は多様でありもっとも自分らしい道を進めるよう、担任レベルで出来得る限りの応援をしている。		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	作業療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	夜	3,150 単位時間/単位	1020 単位時間 /単位	990 単位時間 /単位	1080 単位時間 /単位	単位時間 /単位	60 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140人		104人	0人	10人	17人	27人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 全授業15回の中で、ワークシートやミニツツペーパーの設定や、講義内容の学修状況を把握するための中間試験・小テスト等を授業によって行っている。また、定期的または随時に、担任教員により学修や進路・生活面の面談を実施している。特に夜間部の学生に対しては、昼間就業先の情報提供や就業内容等の相談にも応じている。 意欲・意思のある学生に対しては、課外・学外を通じての教育活動として勉強会の開催やプログラムの紹介等を行い積極的な学修を支援している。 その他、臨床心理士による学生相談室を開設し、希望者には学修や精神心理面のケア等の機会も設けている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20人 (100%)	0人 (0%)	17人 (85%)	3人 (15%)
(主な就職、業界等) 病院、診療所、介護老人保健施設			
(就職指導内容) 就職説明会、就職セミナー、個人面談、履歴書添削			
(主な学修成果(資格・検定等)) 作業療法士			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
104人	9人	8.7%
(中途退学の主な理由) 経済的理由、体調不良、進路変更、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による半期に一度の定期面談と、その他学修状況の変調や、学生からの希望があった際、随時面談を実施。面談内容は、学修不安、経済的・家族の状況、就業を含めた生活状況など多岐にわたる。進路に悩む場合には、学業、経済面、その他において支援しうる手立てを可能な限りアドバイスするようにしている。 最終的に進路変更希望者には、本人の希望・適性について在学中に得られた情報をフィードバックし、職業選択は多様でありもっとも自分らしい道を進めるよう、担任レベルで出来得る限りの応援をしている。		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科（昼間部）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,120 単位時間／単位	900 単位時間 ／単位	960 単位時間 ／単位	900 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	360 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
210人		205人	0人	10人	22人	32人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 全授業15回の中で、ワークシートやミニツッペーパーの設定や、講義内容の学修状況を把握するための中間試験・小テスト等を授業によって行っている。また、定期的または随時に、担任教員により学修や進路・生活面の面談を実施している。 意欲・意思のある学生に対しては、課外・学外を通じての教育活動として勉強会の開催やプログラムの紹介等を行い積極的な学修を支援している。 その他、臨床心理士による学生相談室を開設し、希望者には学修や精神心理面のケア等の機会も設けている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
68人 (100%)	0人 (0%)	57人 (83.8%)	11人 (16.2%)
(主な就職、業界等) 病院、診療所、介護老人保健施設、一般企業			
(就職指導内容) 就職説明会、就職セミナー、個人面談、履歴書添削			
(主な学修成果(資格・検定等)) 理学療法士			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
205人	4人	2.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による半期に一度の定期面談と、その他学修状況の変調や、学生からの希望があった際、随時面談を実施。面談内容は、学修不安、経済的・家族の状況、就業を含めた生活状況など多岐にわたる。進路に悩む場合には、学業、経済面、その他において支援しうる手立てを可能な限りアドバイスするようにしている。 最終的に進路変更希望者には、本人の希望・適性について在学中に得られた情報をフィードバックし、職業選択は多様でありもっとも自分らしい道を進めるよう、担任レベルで出来得る限りの応援をしている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
理学療法学科 (夜間部)	360,000 円	600,000 円	330,000 円	
作業療法学科	360,000 円	600,000 円	330,000 円	
理学療法学科 (昼間部)	360,000 円	800,000 円	500,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校 HP で公開している https://www.sigg.ac.jp/corporate/info/evaluation/ https://www.sigg.ac.jp/corporate/pdf/y2020/assessment2020.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校関係者として、実習施設、卒業生就職先、自治体、卒業生、地域などを含む学校関係者評価委員会を組織し、それぞれの内容を含む学校関係者評価委員会を組織し、それぞれの知見を活かした教育内容・学校運営について評価を行っている。その結果は運営会議で報告され、次年度以降の改善に努めている。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
地方自治体	2020. 4. 1～2022. 3. 31	自治体
自営業	2020. 4. 1～2022. 3. 31	地域
一般財団法人	2020. 4. 1～2022. 3. 31	就職先
大学	2020. 4. 1～2022. 3. 31	卒業生
医療法人	2020. 4. 1～2022. 3. 31	実習施設
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.sigg.ac.jp/corporate/info/evaluation/ https://www.sigg.ac.jp/corporate/pdf/y2020/assessment2020.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.sigg.ac.jp/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	専門学校 社会医学技術学院
設置者名	宮武 剛

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		30人	26人	30人
内 訳	第Ⅰ区分	21人	16人	
	第Ⅱ区分	－	－	
	第Ⅲ区分	－	－	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				30人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	—	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A 4とする。